

## 5. 本時のねらい

将来つきたい職業やその理由を表す表現について理解し、将来の夢について聞き取ったり、たずね合ったりする技能を身につける。

## 6. 本時の展開 ( 3 / 7 )

過程	学 習 活 動	教師の動き	研究内容に関わって
つかむ	<b>1. Greeting</b> ・曜日, 日付, 天気, 気分を確かめる。 <b>2. Chant P.77</b> ・What do you want to be? <b>3. Today's Goal</b> 将来つきたい職業とその理由を言ってみよう。	・ALTが進める。 ・教師と児童とでやりとりしながら、本時の活動の見通しがもてるようにする。	<b>研究内容①</b> コミュニケーションを行う目的(地域の方や中学校の先輩に向けて、自分のよさをアピールしたり、自分の願いを表現したりするために、将来つきたい職業とその理由を伝える)を確かめる。
	<b>4. Let's Play (3ヒント・ビンゴゲーム①)</b> ・教師が話す3つのヒント(ある職業につきたい理由)を聞く。どの職業につきたいと言っているのか推測しながら聞く中で、理由を表す表現にたくさん触れる。 S: What do you want to be? T: Please guess. I like <u>home economics</u> . I can <u>cook curry and rice</u> . I am good at <u>cooking miso soup</u> . S: ... Cook? T: That's right.	・既習表現を使ってヒント(ある職業につきたい理由)を出す。その際には、児童が思考しながら聞くことができるよう、ヒントの順番や内容を工夫する。 ・ヒントに使う既習表現については、あらかじめ板書に位置づけておく。 ヒントに使う既習表現 ・I like ... (好きなもの) ・I can ... (できること) ・I am good at ... (得意なこと) ・I am ... (自分の性格や特長) ・I want to ... (したいこと)	<b>研究内容①</b> ゲームでヒントを出す際には、どの職業でも使用することのできる表現と、ある職業ならではの表現とを組み合わせることで、徐々に選択肢が絞られていくようにする。そうすることで、答えを予想しながら、必要な情報を聞き取ろうとする姿を生み出す。
考える	<b>5. Activity ⇔ Sharing Time (3ヒント・ビンゴゲーム②)</b> ・児童がヒント(ある職業につきたい理由)を考える。その後、それぞれが考えたヒントを全体の前で出題する。 ・必要に応じてSharing Timeを行い、言いたいけれど言えなかったことを表現するための英語表現を全体で想起する。	・児童の困り感を解決できるような表現を、児童とともに考え、伝える。 ・Performance Timeの様子をタブレットで撮影し、ねらいを達成した姿や、次の時間に目指す姿を紹介し、価値づける。	<b>研究内容①</b> 児童にも出題する側の立場を経験させることで、楽しみながら、理由を表すさまざまな既習表現に触れることができるようにする。
深める	<b>【a teacher】</b> I like <u>children</u> . I am good at <u>math</u> . I can <u>teach very well</u> . I am <u>kind</u> . <b>【a nurse】</b> I like <u>people</u> . I am <u>strong</u> . I want to <u>help doctor</u> .	ALTによる評価 言語面や態度面における評価 ・児童の発音の仕方について ・正しい英語表現(語順等)になっていたかどうかについて ・相手が言ったことを共感的に受け止める言葉を返す姿について	<b>研究内容②</b> Activityに取り組む中で児童が抱いた困り感を、Sharing Timeで共有し、言いたいけれど言えなかったことを表現するための英語表現を全体で想起する場を設けた。
	<b>6. Performance Time ⇔ Sharing Time</b> ・ペアで自分が将来つきたい職業とその理由をたずね合う。 S1: What do you want to be? S2: I want to be a zookeeper. S1: You want to be a zookeeper. Why? S2: I like animals. S1: I see. S2: What do you want to be?	HRTによる評価 内容面や態度面における評価 ・自分の考えや気持ちを伝えようと、既習表現を積極的に用いる姿について ・よりよく伝わる方法や、会話がより継続する方法を考える姿について	<b>研究内容③</b> Good Job Timeでは、HRTは内容面についての評価を行う。既習表現を積極的に用いることで、将来の夢について詳しく伝えることができるということに気づかせたい。また、そうすることが、仲間が自分のことを理解してくれる喜びや、仲間の新たな一面を知る喜びにつながるということも感じさせたい。そして、「次も自分自身のことを仲間に伝えたい」と感じる事ができる本時の終末にする。
確かにする	<b>7. Good Job Time</b>		